

してはいけない

マタイ福音書 23 : 1-12

(そのとき、) イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。だが、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。『教師』と呼ばれてもいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

説教

きょうの福音はマタイの 23 章です。

そうだね (こういう人) いるよ、いるいる。そうでしょ、読めばわかるでしょ。わたしとしてはこれでおしまいとしたいところです。

きょうの福音を読んでピンときておこないを改める指導者や教師、牧師や神父はいたのでしょうか。改めた者が大勢いたら今のキリスト教はちがった形になっていたことでしょうか。当時の律法学者やパリサイ派の人たちもこのイエスのことばに耳をかたむけませんでした。福音ではイエスは「群衆や弟子たち」に話したことになっていますが、群衆や弟子たちにもこのように偉そ

うにする傾向があったのかもしれませんが。

「実るほど頭をたれる稲穂かな」ということわざがあります。謙譲の美德を意味することわざです。

だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。 マタイ23:12

このことばできょうの福音は結ばれますが、イエスはさきの稲穂のことわざの処世術、謙譲のすすめのようなことを、救いのみことば、いのちのことばとして語ったとは思えません。

若いころは傲慢で、年をとったら謙虚になった。これなら普通にありそうな話です。若いころから謙虚だったら、おいおい、ちょっとお前、やる気あるのかと疑われます。また若いのに謙虚、というのみなにかたくらみがあるのでは？と勘ぐられます。傲慢は誇張しすぎかもしれませんが、積極性は悪徳ではありません。なんでも自分の思い通りにはいかない、このことに気付くと謙虚さを学びだすよ、実るほど頭がさがるといふ譬えはこのことを言っているのですよ、というのが「頭をたれる稲穂」の解説です。しかし、高ぶる者、へりくだる者という教えはイエスの十字架のことでしょう。このことわざのいわゆる処世術とは全く別のものです。

あなたがたのなかで一番偉い人は仕える人になりなさい、これはイエスのことばとされますが、十字架フィルターをとおさず、額面どおりにうけとるとへんになります。

アメリカの有名な伝道師（日曜日のテレビ伝道では1000万人以上の人が見聴するらしい）が来日して日本の牧師たちが夕食に招いたときの話を、そのとき世話役をした牧師から聞きました。食後、アメリカのスーパー伝道師が土下座で祈り始め

同席した日本の有名な牧師先生たちがあわてて床にひざをつき始めたという話です。日本のプロテスタント教会ではひざまずくという習慣がありませんから、世話役牧師は笑い話としてわたしにこっそり教えてくれたのかもしれませんが、滑稽やら、はずかしいやら、聞いたその時はとまどいました。

「一番偉い人は仕える人」これを地でいったというか、パフォーマンスでやったというか、さすがスーパー伝道師、あっぱれです。

わたしは誰かに先生とも呼ばれませんし、牧師さまともいわれません。だから広場で挨拶もされませんし、上席もすすめられません。先生、先生と呼ばれたり、上座のほうへと勧められたりしたらきょうの福音を思い出すかもしれませんが、たぶんとりこし苦労でしょう。

きょうのマタイ23章1-12はマルコ、ルカにそれぞれ並行記事があります。それぞれ短く簡潔な福音になっています。

イエスは教えの中でこう言われた。「律法学者に気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとして歩き回ることや、広場で挨拶されること、会堂では上席、宴会では上座に座ることを望み、また、やもめの家を食べ物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」マルコ12:38-40

ルカ(20:45-47)も同じ長さで同じ内容です。

わたしたちがイエスのことばを救いのことばとして聞き、それを受け取るなら、きょうのマタイ福音は聞き流しましょう。そのかわりに、マタイ23章は教師、リーダー、牧師、神父の耳に手厳しいみことばとして響きますように。きょうのみことばは福音指導者に向けた帝王学(～せよではなく、～してはいけないという)としての意味があります。
